

小犬

婦人 あら、かわいいわんちゃんだこと。もう長く飼ってらっしゃるの？

紳士 ええ、もう十年になります。

婦人 そうですか。合計で？

紳士 もちろんです。

婦人 どうして自由に歩かせないんですの？

紳士 口輪をしてないもので。

婦人 かみつくんですか？

紳士 まさか、とんでもない。

婦人 だったら口輪などいらないうちに。

紳士 いえいえ、口輪がないと市電に乗れないんです。

婦人 でも、今は市電に乗ってませんわ。

紳士 今はちがいます。市電は来ておりませんしね。

婦人 でも、そのうち来るでしょう。

紳士 来ても私には仕方ないですけどね、口輪をしてないから私は乗れませんが、

婦人 あなたは必要ないでしょう。わんちゃんが必要なだけで。

紳士 わかってます。こいつも持つてるんですが、手元にはないんです。

婦人 それじゃ、もちろん市電には乗れませんね。

紳士 もちろん乗れやしません。次で行くことになるでしょう。

婦人 そうですか。私はまた、この市電で行くおつもりかと思いました。

紳士 そりゃあ、これで行きたいですよ、でも、私が家に戻って口輪を取ってくるまでには、この市電は出発してしまうでしょう。私のために十分も待つ

訳にはいきません。

婦人 それは車掌にもできませんね。だって、もし出発しなかったら、次に来る市電が止まってしまいますもの。あなたも、まさかこんなちっちゃなわんちゃんのためにそんなことを要求できないでしょう？

紳士 もちろんできませんよ。そんなことわかってますよ。ごちゃごちゃ尋ねて私をいらつかせないで下さい。ご自分の子供でも構って、他人のことには

口出ししないで下さいよ。そうでなくても犬を飼ってるといろいろ腹立たしいことや不愉快なことが多いんですから。真夜中に暖かい寢床から出て、犬を下に連れて行かなければならないことがしばしばあるんです。中庭でさせてはいけないし、玄関ホールでもいけない。我々人間は便利ですよ。でも、犬にトイレに行けつて要求する訳にもいけません。年がら年中、この犬のおかげで家主や管理人と喧嘩ばかりです。　　昨晚なんかもこんなことがありました。うちの犬が歩道のまん中で大きい方をしてたんです。それを一人の紳士が見つつけて、私のところに近づいてきて、どなりつけるんです。「ひどいぞ、犬の奴が汚すために歩道があるのかね。犬はもちろん、ここが歩道だって知らない。でも阿呆なお前さんだつて、そのくらいはわかるんだろ？　車道にはああいうことをさせるに十分な余地があるだろうに」

婦人　　おや、まあ。でもわんちゃんは車道でもしない方がいいわ。自動車や自転車の運転手がすぐにどなるでしょう。「その馬鹿犬を車道からどける！」つて。

紳士　　ええ、それで私は言う通りだと思ひましてね。で、きょうは、この犬がまた歩道で大きい方をやるうとしたもんだから、すぐに引き綱を引いて歩道から車道に下ろしたんです。すると、一人の男が私にどなりました。「何て奴なんだ。動物愛護協会を呼ぶぞ。用便の最中にこの野蛮人はかわいそうな犬を車道に引つ張り降ろした。告発ものだ、ひどいぞ」

婦人　　それは、それは。あした、わんちゃんがまたしそうになったら、どうするおつもり？

紳士　　屋根の上に犬を連れて上がるか、薬殺して剥製にするかですな。

婦人　　それがよろしいですわね。そうしたらもう大きいのも小さいのもしないし、ずっとじっとしていますもの。